

‘平成 26 年 04 月
日本プラスチック板協会

高速道路に使用される透光性遮音壁に関する ポリカーボネート板の耐燃性能について

平成 25 年 7 月に、東日本高速道路株式会社・中日本高速道路株式会社・西日本高速道路株式会社より、「NEXCO 試験方法第 9 編環境関係試験方法」が改正・発行されました。

日本プラスチック板協会では新たに制定された耐燃性区分について、改訂されたバーナー法（NEXCO 試験法 904：2013）の試験条件に基づいて、ポリカーボネート板の厚み 8mm～15mm について試験を行い、以下の結果となりました。

試験結果；

別紙の結果から、厚み 8mm 以上のポリカーボネート板は耐燃性区分Ⅱに合格、厚み 15mm 以上のポリカーボネート板は耐燃性区分Ⅲに合格することが確認されました。

参考；

- 1) 耐燃性区分については、NEXCO 設計要領第五集 交通管理施設編[遮音壁設計要領]（平成 25 年 7 月）表 3・2 透光性遮音板の性能区分表（耐燃性区分）をご参照ください。
- 2) 添付別紙の試験結果は、NEXCO 試験方法第 9 編環境関係試験方法の「試験法 904 様式 904 遮音壁耐燃性試験（バーナー法）（作成例）」に準じて作成しました。

試験法 904 様式904 遮音壁耐燃焼性試験(バーナー法)

様式-904

試験方法904	遮音壁耐燃焼性試験(バーナー法)		
---------	------------------	--	--

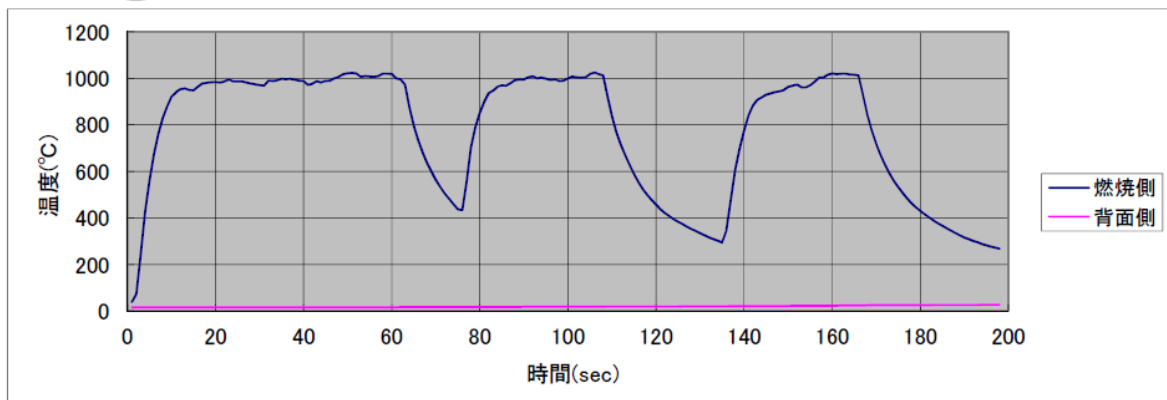
調査名・目的			
施工場所		試験者	日本プラスチック板協会
気温(°C)	13	試験場所	一般財団法人ベターリビング つくば建築試験研究センター
湿度(%)	32	試験年月日	2014年1月27日

供試体名	ポリカーボネート板		耐燃焼性区分	II
試験材寸法(mm)			メーカー名	
板厚	高さ	幅	日本プラスチック板協会会員社	
8	1000	1000	4辺支持(鋼材による支柱前面押え取り付け)	
構造仕様	バーナー着火30秒後の温度			
	971.3°C			

【結果】

①	バーナー燃焼 60秒	着火無	—					
		着火有	最高温度(°C)	燃焼時間(秒)	燃え抜け	背面側滴下物	自消性	消火方法
			1023.5	0	無	無	—	—
②	バーナー燃焼 ①+30秒	着火無	—					
		着火有	最高温度(°C)	燃焼時間(秒)	燃え抜け	背面側滴下物	自消性	消火方法
			1024.5	18	無	無	有	—
③	バーナー燃焼 ②+30秒	着火無	—					
		着火有	最高温度(°C)	燃焼時間(秒)	燃え抜け	背面側滴下物	自消性	消火方法
			1021.3	19	無	無	有	—
④	バーナー燃焼 ③+3分50秒	着火無	—					
		着火有	最高温度(°C)	燃焼時間(秒)	燃え抜け	背面側滴下物	自消性	消火方法
			—	—	—	—	—	—

判定	合格	不合格
----	-----------	-----



試験法 904 様式904 遮音壁耐燃焼性試験(バーナー法)

様式-904

試験方法904	遮音壁耐燃焼性試験(バーナー法)		
調査名・目的			
施工場所		試験者	日本プラスチック板協会
気温(°C)	13	試験場所	一般財団法人ベターリビング つくば建築試験研究センター
湿度(%)	32	試験年月日	2014年1月27日

供試体名	ポリカーボネート板		耐燃焼性区分	Ⅲ
試験材寸法(mm)			メーカー名	
板厚	高さ	幅	日本プラスチック板協会会員社	
15	1000	1000		
構造仕様	4辺支持(鋼材による支柱前面押え取り付け)			
バーナー着火30秒後の温度	971.3°C			

【結果】

①	バーナー燃焼 60秒	着火無	—					
		着火有	最高温度(°C)	燃焼時間(秒)	燃え抜け	背面側滴下物	自消性	消火方法
			1007.7	0	無	無	—	—
②	バーナー燃焼 ①+30秒	着火無	—					
		着火有	最高温度(°C)	燃焼時間(秒)	燃え抜け	背面側滴下物	自消性	消火方法
			996.6	0	無	無	—	—
③	バーナー燃焼 ②+30秒	着火無	—					
		着火有	最高温度(°C)	燃焼時間(秒)	燃え抜け	背面側滴下物	自消性	消火方法
			998.3	22	無	無	有	—
④	バーナー燃焼 ③+3分50秒	着火無	—					
		着火有	最高温度(°C)	燃焼時間(秒)	燃え抜け	背面側滴下物	自消性	消火方法
			1034.1	101	無	無	有	—

判定	合格	不合格
----	----	-----

